

## 生涯学習課 資料

文部科学省 「平成 25 年度公民館を中心とした社会教育活性化プログラム」  
事業への応募 (委託決定はまだ)

「公民館等を核とした社会教育活性化事業」事業実施団体の活動予定  
～ 持続発展教育 (ESD) の普及・啓発を目指して ～  
(ESD・・・Education for Sustainable Development)

愛知県教育委員会 生涯学習課

## 大府市教育委員会 生涯学習課

- 1 事業名 「自然とともに、みんなで学ぶ ESD」
- 2 組織 「大府市 ESD 推進協議会」  
大府市地域婦人団体連絡協議会・ナチュラルリターンクラブ  
おおぶ菜の花プロジェクト・大府市教育委員会生涯学習課
- 3 活動  
「菜の花クラブ」「ナチュラルリターンクラブ」が長年取り組んできた自然と関わり合う活動を基盤として、地球環境や生物多様性について考え、ESD の普及・啓発につなげる。公民館に「大府市 ESD 推進協議会」を設置し、活動の拠点とするとともに、活動内容を公民館利用団体に周知し、事業への参画を促すことにより地域コミュニティの活性化を目指す。
  - ・ 「菜の花クラブ」の活動 …… 野菜の栽培・収穫・調理や菜種油を作る活動を通して、自然と人との関わりや、生きもの同士のつながりについての学びを深める。  
菜の花まつり (4 月開催) において 1 年間の活動の成果を広く市民に発表し、自然に根ざした活動を通して ESD の価値を普及・啓発する。
  - ・ 「ナチュラルリターンクラブ」の活動 …… ダンボールコンポストの活動を通して、ゴミ問題から循環型社会の仕組みを考え、ESD の普及・発展を目指す。
  - (1) 「大府市 ESD 推進協議会」の設置・開催
    - ・ 公民館で定期的開催して、指針や計画を立案し、大府市としての ESD の普及啓発を目指したプログラムを作成する。
    - ・ 関係諸団体が協働して事業を進めるための連絡・調整の場とする。
    - ・ 随時、活動の見直しや修正を行い、PDCA サイクルを有効に機能させる。
  - (2) ダンボールコンポストの活動体験
    - ・ 購入したスターターキットは回収して次年度以降も使用する。
  - (3) 専門的な知識を有する講師を招いて研修会の実施
    - ・ ゴミ問題や食糧問題から循環型社会の仕組みを考える。
  - (4) 先進地視察研修の実施 (知多郡武豊町の「クリーンシティクラブ」を計画中)
  - (5) 活動紹介パネル作成
    - ・ 活動内容を公民館利用団体に周知し、事業への参画を促す。

## 豊田市 社会部 生涯学習課

- 1 事業名 「豊田市交流館を核とした ESD の普及啓発事業」
- 2 組織 「豊田市 ESD 推進プロジェクト」  
豊田市生涯学習課・(公財)豊田市文化振興財団
- 3 活動  
豊田市生涯学習課では、交流館 (公民館) が地域の活動拠点とするための重点目標として、① 地域における住民の育ちあい・学びあいの支援 ② 子どもを地域の担い

手とするために必要な事業の推進を掲げている。交流館活動の事業企画を担う職員及び活動の中核を担う自主グループリーダーなどの様々な年齢層・主体に対して、E S Dの考え方や実践例を学ぶ場を提供することによって、市民が自発的に地域社会においてE S D活動を展開するよう促していく。

- (1) 交流館長・主任主事研修 …… 交流館事業運営の責任者である館長及び事務責任者である主任主事に、E S Dの考え方や具体的な取組事例、愛知県におけるE S D推進事業の動向を学ぶ機会を提供し（講演会とワークショップ）、平成26年度以降の事業計画に反映させていく。
- (2) 交流館自主グループ代表者向けE S Dワークショップ …… 交流館を拠点に活動するリーダーを対象に、E S Dについて学ぶ場（講演会とワークショップ）を提供して、理解を深めてもらうことによって、交流館におけるE S D推進事業への参加協力を促す。
- (3) 交流館主事等社会教育関係職員向け全体研修会 …… 交流館の実務担当者である主事及び青少年センターなどの社会教育施設の関係職員らを対象に、E S Dを学ぶ場を提供する。

## 弥富市教育委員会 生涯学習課

1 事業名 「油～固ブラ～（あぶら～かたぶら～）「捨てる」から「活かす」へ～」

2 組織 「弥富市 女性の会」  
弥富市女性の会・弥富市教育委員会生涯学習課

### 3 活動

家庭用食用油の再利用や資源の節約にスポットを当て、環境・資源・エネルギーの側面からE S Dの普及・啓発を図る。「実施活動委員会」を公民館に置き、活動の拠点とする。また、各事業への公民館利用者の参加を呼びかけ、連携・協働体制を築く中で、地域活性化を図る。

- (1) 「実施活動委員会」を公民館で定期的に行い、計画の立案や事業の見直し等の検討を行う。
- (2) 廃油石けんやエコキャンドルづくり、資源の再利用への取り組みを通して、E S Dの価値に迫る活動を市民向けに展開する。
- (2) 環境省の「ライトダウンジャパン 2013」に賛同して、エコキャンドルを灯し「電気を消して未来を見つめよう」の呼びかけを行う。
- (3) 「バイオマスエネルギー実験」からE S Dを学ぶ  
化石燃料に依存する現代のエネルギー事情の中にあって、実質的な二酸化炭素排出量の減少や地球温暖化対策の観点から、植物性廃棄物等によるバイオマスエネルギーが脚光を浴びている。バイオマスエネルギーは小規模ながら国内外で実用化されており、平成19年より首都圏50箇所のガソリンスタンドでバイオガソリンの販売が始まっている。しかし、化石燃料に比べて経済的には不利であり、さらに地球環境や食糧事情に影響を与えずに菜種油や大豆油などの食用油を、安価で大量にしかも安定的に供給してバイオマス燃料を生産することにはまだまだ課題も多い。バイオマスエネルギーの利用には限界があるものの、少量であっても天ぷらの廃油等を利用すれば実用化は可能であり、「レボ・インターナショナル（使用済み天ぷら油の回収を行うバイオディーゼル燃料のリサイクル業者）」に依頼して、家庭にある身近な廃油を使ったバイオマスエネルギー実験（バイオディーゼル燃料カートの走行実験）を通して科学的な考察の中から、環境・資源・エネルギー問題を子どもたちにも分かりやすいかたちで考えさせていく。
- (4) 節電に関する学習会や工場見学を行い、E S Dの学びを通して普及・啓発につなげる。